

※結果分析(○成果 ●課題)  
〈学力調査〉

【国語】

○物語文を読み、伝わってくることを10字以上30字以内にまとめて書く問題と、漢字（「反省」）を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題で、正答率が全国平均と同程度でした。  
●平均正答率は全国に比べ、11.6ポイント、岡山県に比べ、13ポイント低い結果でした。特に、文章を読み、立場を明確にしたり、よさを見つけたりした上で、字数（50字～80字、60字～100字などの長い文量）や必要なキーワードを取り上げるなどの条件に合わせて自分の考えを書くことに大きな課題が見られました。

【算数】

○日常生活の問題（1年生と6年生の交流会）を解決するという目的に応じて、円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題で全国平均正答率を上回りました。また、表の空欄になっている項目に入る数を求める問題で全国平均と同程度でした。  
●平均正答率は全国に比べ、10.2ポイント、岡山県に比べ、9ポイント低い結果でした。特に、「果汁が20%含まれている飲み物の分量が2分の1になっても、含まれている果汁の割合は変わらない」ことを理解しているかどうかを見る問題、比例の関係を用いて果汁が180mlのときの飲み物の量を求める問題の正答率が低かったです。

【理科】

○日光は直進することを理解しているかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を上回りました。昆虫の体のつくりを理解しているかどうかを見る問題の正答率が全国平均と同程度でした。  
●平均正答率は全国に比べ、15.3ポイント、岡山県に比べ、16ポイント低い結果でした。特に、観察や実験で得た情報を基に、ふさわしいまとめを検討して改善したり、自分の考えを記述したりすることに大きな課題が見られました。

【学習状況】

○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」の設問の肯定的回答の割合は100%、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。」の設問の肯定的回答の割合は84.7%で、主体的・対話的に学ぶ力が育っていることがうかがえました。  
●ICT機器の活用について、学級の友達と意見を交換する場面や自分の考えをまとめ、発表する場面

- ・考えをまとめて書く力の育成をめざし、授業や補充学習において、考えたことやわかったことを書く機会を意図的、計画的に設定し、繰り返し書いたりするとともに、書き方や解き方の指導もしていきます。
- ・漢字や計算力を付けるために授業での理解と練習、朝学習、宿題、小テストのサイクルで繰り返し練習し定着を図ります。また、語彙を増やすために、国語辞典やクロムブックをいつでも活用できる環境を整えていきます。
- ・課題となっている学力の定着度を上げるため、全学年において、つまずきの大きかった単元や領域に関わる学習内容を重視した授業を行うとともに、ICT機器を活用することで「分かる」「できる」授業づくりに取り組みます。
- ・「問題データベース」のプリントを常時ストックし、自主学習や補充学習などに、活用します。

以上のような学校の取組に対して、ご理解とご協力を願います。